

留学報告

岩手大学4年の和野彩月です。

金曜日で一回目の語学学校が修了し、一段落つきました。以下、初めの1か月間の留学報告をお送り致します。

○ホームステイについて

私にとってホームステイをするのは初めてのことでした。異なる家族との共同生活をすることは気を遣いもしましたが、生活のことを沢山学ぶことができました。買い物をするのにいい場所、おいしい食べ物、生活の中で使う英語などです。日本で学んでいたのはアメリカ英語ですが、オーストラリアではイギリス英語を使用しています。「お風呂に入る」は”take a bath”とと思っていましたが、こちらでは”have a shower”と言います。英語のアクセントもかなり違い、申し訳ないことに私にとってホストファミリーの英語が一番難しかったです。うまく聞き取ることができない私と根気強く会話してくれました。また、ホストファミリーの孫の友達にえくぼの可愛い男の子がおり、dimple という単語を覚えました。授業では教えられないような生活に関する語彙や表現を知っていくことが面白かったです。

○語学学校について

私が4週間通っていた Cairns College of English & Business(CCEB)では、general English course に在籍していました。クラスレベルは beginner から advanced まで6段階あり、私は upper-intermediate という上から2番目のクラスでした。授業中に使用される語彙レベルとしては主観ではありますが英検準1級の頻出度 A くらいだったと思います。クラスメイトの出身はスイス、フィンランド、バリ、コロンビア、ブラジル、チリ、韓国、日本でした。先生は、分からない単語はクラスメイトにまず聞きなさいという方針でした。そのため、“What does it mean?”をお互いに沢山言い合っていました。自分の知っている単語については日本語で意味を知っているだけでなく、英語で説明をするということが求められたので、かなり鍛えられました。文法は仮定法、受け身、未来を扱いました。答え合わせを全体でする前にペアやグループで行いました。回答に齟齬があった時には自分の回答の根拠を説明するので、文法説明を英語でするということをしました。これもまたいい訓練でした。内容としては、自分にとっての価値(社会福祉、教育、社会的平等、正義、環境、動物の権利)、野生化し問題になっている動物、義手義足の状況と社会保障、ICT 技術と教育、2100年の世界などを話しました。これらのトピックを通して他国やクラスメイトの考えを知ることができ、面白かったです。

私のクラスの先生は最初の3週間と最後の1週間で違う先生でした。先生方からは、言語教育に携わる者としての深い省察を感じることができ、言語教育者になる側

としての学びもたくさんありました。必要語彙が学習者の研究や関心によって異なること、全ての語彙を理解する必要はないこと、ターゲットの学習内容とは逸れても、学習者が今その場で必要とする表現を取り上げることなどです。混乱のしやすいものについては例示をして学習者が納得するまで向き合ってくださいました。

スイスで小学校の先生をしていたという友達が IELTS コースにいます。スイスの小学校の先生はその試験でスコア7を取らなければいけないようです。スコア7は英語検定1級、TOEIC870~970に相当します。中学校以降の英語の先生ももちろん必要です。世界に通用する英語を教えたいのに、日本の教師の英語レベルが世界と比べて大丈夫だろうかと心配になりました。英検、TOEIC のようなインプット中心の試験だけで満足せず、4技能が問われる IELTS や TOEFL のような試験にも挑戦しなければと思いました。

○先住民について

この話題をまだ1か月しかオーストラリアにいない、きちんと理解しているわけでもない私が語ることに躊躇いはありながらも、私が今までに感じたことをお伝えしようと思います。

Cairns Museum という博物館があったので、行ってきました。この土地の歴史をきちんと調べることができないまま渡航してしまったので、少しの手がかりが得られればと思ったからです。

アボリジニの文化はケアンズの文化を作る上で貴重だということが述べられていました。「アボリジニ」というのは総称に過ぎず、その中にもたくさんの民族があるようです。元々彼らが住んでいたところに後から人がやって来て、白人を頂点とする社会を作ったのだとありました。彼らは自分達の土地から追いやられました。彼らが元々名付けていた土地も、そうとは知らずに新たな名前が与えられました。「名づけることは所有することである」ということを考えると、事の重大さを感じます。

平日なのに私服で学校に行っていない子ども達を見ました。オーストラリアに住んでいる人からは「彼らに近づかない方がいい」「アボリジニがたくさんいる学校は terrible だ」「あの学校の子達ガウ悪いでしょ」ということを言われました。友達は「1ドルくれ」と言われたと言います。

お店にはブーメランや独自の楽器など、アボリジニ由来のものがたくさん並んでいます。なのになぜ、彼らは退けられているのでしょうか。

彼らを見ると恐怖する自分がいます。肌の色が暗いから、顔立ちに野性味があるから、身体が大きいから、私に分からない言葉で、大きな声で話すから。外から見える部分でしか判断していないことを恥ずかしく思います。教育における環境の重要性を理解しています。対話をしなければ相手を理解できないことを理解しています。文化

や民族、言語に優劣がないことを理解しています。それでもなお恐怖する自分に矛盾を感じる日々です。

○環境について

オーストラリアは環境の保全に厳しいです。ビニール袋には“reusable bag(再使用できる袋)”の文字があります。お店で出されたストローは紙製でした。アルミ缶やペットボトルなどはお店に持っていくと10セントになります。買い物にマイバッグを持っていくのは当たり前で、お店から袋をもらうと有料になります。

グレートバリアリーフのツアーに行き、シュノーケリングとスキューバダイビングをしました。Passions of Paradise という会社を利用しましたが、船内ではグレートバリアリーフに関するレクチャーがありました。観光会社が自らの観光資源について啓発することは大切だと感じました。

環境に対して厳しいなあと思っていましたが、このツアーでサンゴ礁群を見た時、これは守らなければという不思議な使命感が湧きました。海の下には一つの世界があり、それは神秘的なものでした。

○動物について

動物の権利についても意識を高くもっています。スーパーの卵売り場に行くと、“cage egg”、“cage-free egg”、“free range egg”の文字があります。それぞれ、羽を伸ばすこともできない狭い場所にいる鶏の卵、ある限られた範囲で、しかしぎゅうぎゅうとしている場所で動くことのできる鶏の卵、広い場所でのびのびと動くことのできる鶏の卵です。こちらでは卵を買う時にいつも自分の選択を迫られる気がします。

写真について

・語学学校の放課後アクティビティ ブーメランペインティング





・語学学校の最終日 担任の先生と



・グレートバリアリーフツアーにて シュノーケリングの様子